

土浦の将来を担う子どもたちからの問いかけ 令和3年度子ども模擬議会

市内の小学生が議員や記者となって、日頃感じている市政についての質問を市の執行部に問いかける「子ども模擬議会」を開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、残念ながら中止となってしまいましたが、「夢のある、元気のある、土浦」の実現に向け、子どもたちが土浦の未来を真剣に考えた質問について、市の答弁の概要とともにご紹介します。

固広報広聴課(☎826-1111 内線2376)

市長の仕事について

(下高津小学校)

市長は普段どのような仕事をしているのですか。また、そのなかで1番大変な仕事や、うれしかったことは何ですか。

市長の仕事は、市民の皆さんが、住みやすく安心して生活できるよう、市役所の仕事を決めることです。市民の皆さんの声に耳を傾け、意見を聴き、議会で条例や予算を決めて事業を進めていきます。今年の10月に実施したごみ袋の値下げについては、多くの市民の方から喜びの言葉をいただき、大変うれしく感じています。これからも皆さんが笑顔で毎日を過ごせるよう、一緒にまちづくりに取り組んでいきます。

【安藤市長】



御代 彩斗 議員



藤代 明依 記者



麻生 一稀 議員



久家 創大 記者

お金の使い道について

(都和小学校)

市の予算において、民生費が一番多いのはなぜですか。また、私たちの生活にどのように活用されていますか。

民生費は、子どもから高齢者まで、すべての世代の方が健康的な生活を送るために日々使われるお金であるため、毎年大きな金額が必要となります。具体的には、保育料や子どもの病気・けがの治療費の無料化、子どものいる家庭の生活支援、介護サービスなどに使われています。これからも皆さんが健やかな暮らしを送ることができるよう、適切にお金を使っていきます。

【川村市長公室長】

自然災害時の対応について

(荒川沖小学校)

新型コロナウイルスが心配ですが、密集しないで避難生活はできるのですか。また、みんなが安全に避難生活のできる取り組みはしていますか。

避難所では多くの方が密集することで、集団感染の危険性が高まるため、1人あたりのスペースを広げること、親戚や知人宅、ホテルなどを避難先にするなど、人を分散させることが重要です。避難所での感染予防として、検温や消毒、換気の徹底、人との接触を減らすなどの対策を行います。危険が迫ったときに大切な命を守るよう、避難先や避難行動について皆さんもあらかじめ考えておいてください。

【羽生総務部長】



松浦 由佳 議員



川田 有紗 記者



土肥 音和 議員



瀬古澤 翠 記者

防災や被災地への支援について

(上大津東小学校)

災害に備えて、市ではどのような防災への取り組みをしていますか。また、被災地に対しては、どのような支援をしていますか。

市では、ハザードマップを配布するなど、防災に対する意識を高めてもらうよう、災害に対する心構えなどをホームページや広報紙でお知らせしています。被災地への支援は、不足する食料や物資の提供、災害対応を行う職員の派遣をしてきました。皆さんも日頃から災害に対する備えを心掛け、そして災害時に限らず、互いに助け合うことの大切さを意識して生活してください。

【東郷副市長】



澁谷 篤紀 議員



古沢 楓真 記者

高齢者支援の交通機関や対策案について

(神立小学校)

高齢者が免許を返納したあとも、安心してこれまでどおりの生活が送れるように、何か対策は考えていますか。

市では、高齢者が運転免許を返納しても外出に困らないよう、そして、安心して外出できるように、65歳以上の高齢者に対し、土浦地区タクシー協同組合が運行する「のりあいタクシー土浦」の年会費を助成しています。このタクシーは多くの高齢者が通院や買い物、趣味の活動などの外出の際に利用しており、大変喜ばれています。

【塚本保健福祉部長】

少子化対策について

(都和南小学校)

市の総人口に対する子どもの割合の現状はどうなっていますか。また、市として取り組んでいる少子化対策はどのようなものがありますか。

令和3年4月1日現在、市の人口は14万1119人、そのうち0歳から17歳までの子どもの数は1万9501人で、市の人口に占める割合は13.8%となっています。市では、少子化対策として、安心して子育てができる環境をつくるため、今年度より「こども未来部」を創設し、結婚や出産にともなう費用の助成、妊娠や出産についての相談窓口を開設しています。

【加藤こども未来部長】



中根 陽大 議員



荒澤 咲良 記者



中久喜愛瑠 議員



小松 凜奈 記者

救急救助や応急手当について

(新治学園義務教育学校)

救急救助は市内において、1年間にどれくらい行われていて、どのような種類の救助が多いですか。また、応急手当などの技術を高めるために、日頃どのような訓練を行っていますか。

令和2年中の救急件数は6640件、救助件数は113件で、救急で最も多い種類は急病で4366件、救助では交通事故が36件でした。技術を高める訓練については、AEDの使用や薬の投与を行う救急救命処置訓練、火災防御訓練、はしご車を使った高層建物救出訓練など、消防隊・救急隊・救助隊があらゆる事故を想定した訓練を行っています。

【鈴木消防長】

給食の食べ残しについて

(東小学校)

新型コロナウイルスにより給食の食べ方が変わりましたが、給食の食べ残しに変化はありましたか。また、食品ロスの問題に対し、市としてはどのような取り組みをしていますか。

食べ残しの量については、前を向き黙って食べている現在と、それ以前ではあまり変化はありません。市では、給食の食べ残しを有効活用するため、リサイクル施設でたい肥などを作り、学校や町内会、市民の方に配布しています。また、食べ残し削減の取り組みとして、調理方法や味付けを工夫したりするほか、食べ物に関して興味関心を持ってもらえるよう、給食メッセージを各学校に届けています。

【望月教育部長】



大谷 歩 議員



草間 千晴 記者



荒井 咲 議員



石川 史都 記者

小学生のための公共施設について

(大岩田小学校)

公共施設は税金によって運営されていることを学習しましたが、潰れてしまうことはありますか。また、施設を利用する際に私たちが必ず守るべきルールなどがありますか。

将来にわたってより良い市民サービスを提供するため、利用状況や必要性を考え、新たに施設を造ったり、場合により廃止したりすることがあります。小学生の皆さんがよく利用する施設として、図書館や公民館などがありますが、どの施設においても、「物を大切に扱う」など、決められたルールやマナーを守って利用することが一番大切です。これにより誰もが気持ち良く施設を利用でき、また、施設をより長く維持することができます。【入野教育長】



平川英理奈 議員

土浦市のまちづくりについて

(真鍋小学校)

土浦駅前の商店街では、最近シャッターの閉まっている店を多く見かけるようになりました。土浦市を元気にするため、どのようなまちづくりを行っていますか。

市では、土浦駅前ににぎわいを取り戻すため、市役所・図書館などの移転や新しくお店を始める人への家賃などの援助、「自転車のまちつちうら」への取り組みなど、さまざまな事業を行っています。これからも、未来の土浦を支える若い皆さんのフレッシュな意見を大事にしなが、知恵を絞り、魅力あるまちづくりを進めていきたいと思ひます。



小里 虎誠 記者

【栗原副市長】

霞ヶ浦の環境について

(土浦第二小学校)

霞ヶ浦の生態系についてどのような問題があり、それに対してどのような取り組みを行っていますか。また、私たちが協力できることはありますか。

外来魚が霞ヶ浦の在来魚を食べるので数が減少し、霞ヶ浦本来の生態系が崩れていることが問題になっています。そのため、法律で外来魚の移動・輸入が禁止されました。漁師さんは漁で捕獲した外来魚は取り除き、数を減らすようにしています。また、霞ヶ浦の生態系を守るために一番大切なことは、霞ヶ浦の水を汚さないことです。川などにごみを捨てない、お皿についた汚れはふき取ってから洗うなどを家族や友達と実践してください。【塚本市民生活部長】



菊地 夏帆 議員



高見沢智香 記者



森田 麻友 議員

コロナ禍におけるイベントの開催について

(右羽小学校)

昨年は新型コロナウイルスにより、キララまつりや花火大会などたくさんのイベントが中止になりましたが、今年度はイベント開催に向けて、どのように取り組んでいますか。

私たちが昨年は多くのイベントが中止となつてしまい、非常に残念でなりません。コロナによる不安がある今だからこそ、喜びや安らぎを与えられるイベントを、多くの人が必要と感じています。地域を明るく元気にしていくため、感染に十分注意しながらイベントを開催していきますので、これからも感染対策を続け、楽しい思い出作りができるよう、一緒に頑張っていきましょう。



楢戸 蒼士 記者

【佐藤産業経済部長】

公園の遊具や防犯対策について

(乙戸小学校)

公園にどのような遊具を設置しているのですか。また、安全で安心してもらえる公園にするために、どのような防犯対策をしていますか。

大きな公園には多くの遊び機能を組み合わせた遊具を、身近な公園にはブランコや滑り台などを多く設置しています。また、防犯対策として、公園内が暗くならないよう、木の伐採をしたり、木の枝同士が重ならない工夫をして木を植えたりしています。これからも自主防犯組織の皆さんによる地域の見守りなど、地元の方々と協力しながら管理していきたいと思ひます。



平井 海音 議員



正木くらら 記者

【船沢都市政策部長】



小嶋 七海 議員

自転車に安全に乗れるまちづくりについて

(菅谷小学校)

五中地区では、安全に自転車に乗れるようにどのような取り組みをしていますか。また、市全体では、歩行者や自動車も含め、安全に通行できるようどのような取り組みをしていますか。

第五中学校付近から神立駅方面に向かう道路について、自転車が安全に通行できるよう、車道と自転車道を分けて整備しました。市全体では、市内の観光施設などを回れるサイクリングコースに、青い線や矢印を書くことで、安全で快適に走れる道路となるよう整備を進め、「自転車のまちつちうら」を目指しています。また、月に2回、道路パトロールを実施し、穴ぼこや段差などを直しています。



関 耕平 記者

【岡田建設部長】

私たちが担う「これからの土浦」

当日議長などを務める予定だった土浦小学校と中村小学校の代表の児童からは、これからの土浦をどのようにしていきたいか、意見・考えを伺いました。



塚原 快斗 議長
(土浦小学校)

土浦市をもっと住みやすく、活気のある市にしたいと考えています。そのようなまちにするために気になっていることは、土浦市はごみが落ちている場所がまだまだたくさんあることです。これまで以上に地域のみんで力を合わせたり、市にもさらに整備に力を入れてもらうことで、大きく改善されていくと思います。

土浦市は「自転車のまちづくり」が進み、とても魅力的なまちになってきたと思います。私はりんりんロードでサイクリングするのがとても楽しいです。しかし、多くの人が休日に自転車で道路を走る姿を見ると、今後、交通事故が増えるのではないかと心配になります。住んでいる人も遊びに来た人も、安心してサイクリングを楽しめるまちづくりをしてほしいです。



原 彩乃 記者
(土浦小学校)



黒澤すみ恋 議長
(中村小学校)

「一人ひとりがお互いに協力できるようにする」ということが大切だと思います。一人ではできなかった問題も協力し合うことで実現できたり、解決できたりするかもしれません。また、協力することで友情が生まれると思います。私もたくさんの人と関わりを作ろうと思います。

市で発展しているところは土浦駅周辺くらいで、発展している範囲が狭く感じます。つくば市には、つくばエクスプレスや研究所があり、子どもも大人も興味を引かれるようなまちに発展していると感じます。土浦市にも研究所やさまざまなお店などが広がり、子どもも大人も楽しく、住みやすいまちに発展したら良いなと思います。



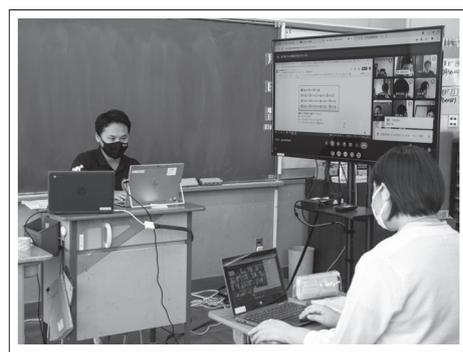
中川 宝 記者
(中村小学校)

学びを止めない！臨時休校中のオンライン学習

問指導課(☎826-1111 内線5130)

9月、県の非常事態宣言を受け、市内の公立小中学校・義務教育学校ではオンライン学習が実施されました。

撮影をした都和南小学校の6年生のクラスでは、「分数のかけ算」が行われ、事前に子どもたちが視聴した授業動画の内容をもとに、教員がデジタル教科書を活用して説明をしていました。また、「Jamboard」(電子上のホワイトボード)を通じて、子どもたち一人ひとりの見方、考え方の良さを学級全体で共有することにより、学校に全員が集まることができないなかでも、子どもたちが主体的に参加して学習することができていました。



オンライン学習の良さは、録画した映像を子どもたちが自分のペースで視聴することができることや、リアルタイムの授業のなかで、同時双方向で意見のやりとりができることです。

これからも子どもたちの学びを保障するため、新しい学習形態を推進しつつ、多様な子どもたち一人ひとりに寄り添った学習環境の整備に努めてまいります。



入野浩美 教育長